

## 資料・統計

## 2002年病理部業務統計

## Annual Report of Pathology in 2002

阿部 康彦 渡辺 芳明 宇佐見 公一 木下 律子  
 小林 由美子 泉田 佳緒 佐藤 由美 北澤 綾  
 栗原 アツ子 川崎 幸子 丹後 絹代 太田 玉紀  
 本間 慶一 根本 啓一

Yasuhiko ABE, Yosiaki WATANABE, Kouiti USAMI, Noriko KINOSHITA,  
 Yumiko KOBAYASI, Kaori IZUMIDA, Yumi SATOU, Aya KITAZAWA,  
 Atuko KURIHARA, Satiko KAWASAKI, Kinuyo TANNGO, Tamaki OHTA  
 Keiichi HOMMA, and Keiichi NEMOTO

## 要旨

2002年(1月~12月)病理部業務統計をまとめた。総依頼件数は22,684件で、内訳は病理組織診断11,549件、細胞診断11,135件、電子顕微鏡検索25件、病理解剖33件、遠隔病理診断16件であり、細胞診、組織診を合わせた術中迅速診断1,004件、院外受託1,270件であった。肺癌検診喀痰細胞診は1,716件であった。業務件数としては作製ブロック数43,488個、各種染色標本85,007枚であった。受け入れた研修、実習生は総数19名であった。

2002年は前年に始めた乳癌のHER2タンパクの免疫組織化学的検索Hercep Testが本格的に実施され倍増した。さらにセンチネル・リンパ節の迅速は乳腺だけではなく、悪性黒色腫など他疾患にも利用され始めた。

## はじめに

2002年病理部業務統計を報告する。業務は日常の組織診断、細胞診断の他に病理解剖、電子顕微鏡検索、肺癌検診、遠隔病理診断等の業務があり、また症例検討会、関連学会・研修会等での講演、発表、投稿等の研究的業務が多数あった。さらに研修医・実習生への指導等も加わり業務は多忙であった。

なお乳癌のHER2タンパクの免疫組織化学的方法Hercep Testによる半定量的検索が本格的に行われ、センチネル・リンパ節迅速も乳腺以外の悪性黒色腫などにも利用され始めた。

## 2002年病理部業務件数(表1)

受付依頼件数はほぼ横ばいで総依頼件数は22,684件で、組織診11,549件、細胞診11,135件であり、うち肺癌喀痰が1,716件であった。院外受託は1,270件で、14施設から依頼があり、依頼施設は県立病院5施設

(加茂病院、津川病院、坂町病院、新発田病院、吉田病院)、その他9施設であった。術中迅速診断も前年の861件から1004件に増加し、組織診、細胞診ともに増加した。業務件数は増加し85,000件に達し、免疫染色も年々増加し9,200枚を越えた。さらに前年開始したHercep Testも倍増し200件に達した。

## 2002年病理検査科別依頼件数(表2)

総依頼件数は21,001件で、組織診ではがん予防センターが11,549件中5,197件で約半数を占め、消化器内視鏡が大半であったが前年よりやや減少した。本院では外科の件数が一番多く、続いて婦人科、皮膚科、泌尿器科の順であった。院外受託は1,110件で約1割を占め、県立加茂病院、県立津川病院の2施設で7割強であった。

細胞診では産婦人科が9,419件中4,399件で半数近くを占め、続いて泌尿器科、内科、予防センター外科、内視鏡(呼吸器)の順で依頼が多かった。

表 1 2002年病理部業務件数

		総件数	組織診	細胞診	電子顕微鏡	病理解剖	遠隔診断
依頼件数	がんセンター	13,937	5,242	8,662	21	33	16
	がん予防センター	5,794	5,197	597			
	院外受託 <sup>1)</sup>	1,270	1,110	160	4		
	術中迅速(再掲)	1,004	445	559			
	肺癌喀痰集検 <sup>2)</sup>	1,716		1,716			
	(依頼合計)	22,684	11,549	11,135	25	33	16
業務件数	ブロック数	43,488	42,222		168	1,266	
	切り出し数	62,728	61,462			1,266	
	普通染色	70,790	53,476	15,995		1,319	
	特殊染色	4,630	3,458	1,101		71	
	免疫染色 <sup>3)</sup>	9,284	8,831	312		141	
	ISH染色 <sup>4)</sup>	95	95				
	Hercep Test <sup>5)</sup>	208	208				
	(染色合計)	85,007	66,068	17,408		1,531	
実習生	研修医	4					
	医学部学生	4	新潟大学医学部				
	臨床検査学生	10	新潟医療技術専門学校 5, 北里保健衛生専門学校 5				
	中国研修生	1	中国黒龍江省臨床検査技師				
職員	病理医	3.1	常勤 3.0, 非常勤 0.1(隔週1日)				
	細胞検査士	7					
	臨床検査技師	3					

- 1) 院外14施設(県立病院5施設, その他病院, 医院9施設)
- 2) 9市町村を担当した
- 3) モノクローナル抗体79種類, ポリクローナル抗体31種類で染色を行った
- 4) In Situ Hybridization (ISH)によるEBウイルスの検索を行った
- 5) 乳癌のHER2 タンパクの免疫組織化学法での半定量的検索を行った

表 2 2002年病理検査科別依頼件数

	総依頼件数	組織診件数 (%)	細胞診件数 (%)	電顕件数	病理解剖
内科	1,548	515 ( 4.5)	1,007 (10.7)		26
内科(がん予防) <sup>1)</sup>	2		2 ( 0.0)		
神経内科	1		1 ( 0.0)		
精神科					
小児科	578	384 ( 3.3)	190 ( 2.0)	12	4
外科	1,673	1,188 (10.3)	485 ( 5.1)	4	
外科(がん予防)	785	191 ( 1.7)	594 ( 6.3)		
整形外科	301	279 ( 2.4)	21 ( 0.2)	3	1
脳神経外科	53	41 ( 0.3)	12 ( 0.1)		
呼吸器外科	650	309 ( 2.7)	341 ( 3.6)		
心臓血管外科					
内視鏡	756	170 ( 1.5)	586 ( 6.2)		
内視鏡(がん予防)	5,007	5,006 (43.3)	1 ( 0.0)		
産婦人科	5,173	773 ( 6.7)	4,399 (46.7)		1
耳鼻咽喉科	496	276 ( 2.3)	220 ( 2.3)	1	
口腔外科	1	1 ( 0.0)			
眼科	12	12 ( 0.1)			
皮膚科	707	705 ( 6.1)			
泌尿器科	1,920	587 ( 5.1)	1,332 (14.1)	1	1
放射線科	68	2 ( 0.0)	66 ( 0.7)		
麻酔科					
院外受託 <sup>2)</sup>	1,270	1,110 ( 9.6)	160 ( 1.7)	4	
総計	21,001	11,549 (100%)	9,419 (100%)	25	33

- 1) (がん予防) : がん予防総合センター
- 2) 主に消化管生検材料, 骨髄, 乳腺の病理診断及び喀痰, 尿の細胞診の受託であった

表3 2002年病理組織部位別件数

	総件数	生検材料	手術材料	迅速材料
頭～頸部	275	118	135	22
甲状腺	66	5	58	3
気管支・肺	446	177	256	13
乳腺	575	203	358	14
肝臓	64	15	41	8
心・縦隔	49	14	29	6
膵・胆道系	300	34	236	30
食道	461	411	45	5
胃	3,624	3,293	295	36
十二指腸	204	20	181	3
小腸	60	33	27	0
大腸	2,557	2,330	223	4
腹膜・腸間膜	64	5	44	15
腎・副腎	125	1	108	16
膀胱	213	160	49	4
前立腺	303	266	31	6
精巣	20	4	15	1
卵巣	232	0	206	26
子宮	662	318	331	13
骨・軟部組織	328	16	254	58
骨髄	878	876	0	2
皮膚	721	155	563	3
脾臓	56	0	55	1
リンパ節	1,336	29	1,151	156
(合計)	13,619	8,483	4,691	445

※ 総件数, 生検材料, 手術材料は延べ総数を計上した

表4 2002年細胞診成績

	件数 <sup>1)</sup>	迅速 <sup>2)</sup>	Class I	Class II	Class III	Class III a	Class III b	Class IV	Class V	検体不良	判定保留
頭～頸部	50			29	5			1	13		
甲状腺	350		21	207	20			7	53	39	1
気管支・肺	838	18	26	392	48			25	338	2	
喀痰 <sup>3)</sup>	726		23	577	38			19	62	7	
乳腺	700	3	22	293	39			14	185	133	1
肝・胆・膵	35	2	3	10	9			3	2	3	
子宮頸体部	4,643		1,318	2,876	74	292	7	10	55	10	1
子宮断端部	196		111	74	3	4		1	3		
外陰部	8		1	4		2		1	3		
骨髄	42		20	17					5		
腫瘍	42		3	10	2			2	17	3	
リンパ節	67		5	15	2			1	35	8	
心嚢液	14	2	1	6	1				7		
脊髄液	261		20	173	25			11	32		
胸水	385	179	18	258	11			9	88		
腹水	683	469	51	497	18			11	104		
尿	1,477	3	87	960	147			64	205	7	1
その他	15	3	2	7	1			1	4		
(合計)	10,532	679	1,732	6,405	405	298	11	180	1,211	212	4

1) 細胞診検査材料の延べ件数を計上した

2) 術中迅速細胞診材料の延べ数を計上した

3) 肺癌検診の件数は含まず

電頭依頼は血液疾患主体で小児科が25件中12件で約半数を占めた。また剖検は33件中内科が26件で大半を占めた。

### 2002年病理組織部位別件数 (表 3)

部位別件数では消化器系が半数以上を占め生検材料でも消化器系が圧倒的に多く、続いて骨髄生検、婦人科系、乳腺、呼吸器系の順であった。手術材料ではリンパ節、消化器系、皮膚科系、婦人科、乳腺、呼吸器系骨・軟部、等の順であった。迅速材料は前年より増加したが、乳腺のセンチネル・リンパ節の増加が大きく、リンパ節の迅速は158件に達した。続いて骨・軟部、胃、膵・胆道、卵巣等の順に多かった。

### 2002年細胞診成績 (表 4)

件数は延べ依頼件数であり、10,532件であった。子宮頸体部が4,643件で半数近くを占め、続いて尿、気管支・肺、喀痰、乳腺、胸腹水が多かった。術中迅速細胞診は679件で前年より増加し、うち胸・腹水

が648件で圧倒的に多かった。なお術中迅速細胞診は検体処理、診断に時間がかかり、見かけの件数以上に人員、業務時間が必要であるが、業務量と比較し保険点数での評価が低い。細胞診陽性 (Class IV, V) は1,391件で13.2%でほぼ前年なみであった。また目的とする細胞がほとんど見られないような標本で検体不良としたものが212件で2.0%近くあり、前年より40件、0.4%増加した。前年同様特に乳腺、甲状腺穿刺吸引細胞診に多かった。検体不良は再検査など患者の負担増につながるのを、減少するよう努めるべきと思われる。

### おわりに

2002年病理部業務統計を報告した。依頼件数は横ばいではあったが、業務内容では免疫関連の業務の増加がみられた。今後も臨床側からの免疫、遺伝子関連の検査の要望が増加することが予想される。これらの要望に応えられるよう努めていきたい。

最後に皆様のご協力に感謝するとともに今後もよろしく申し上げます。